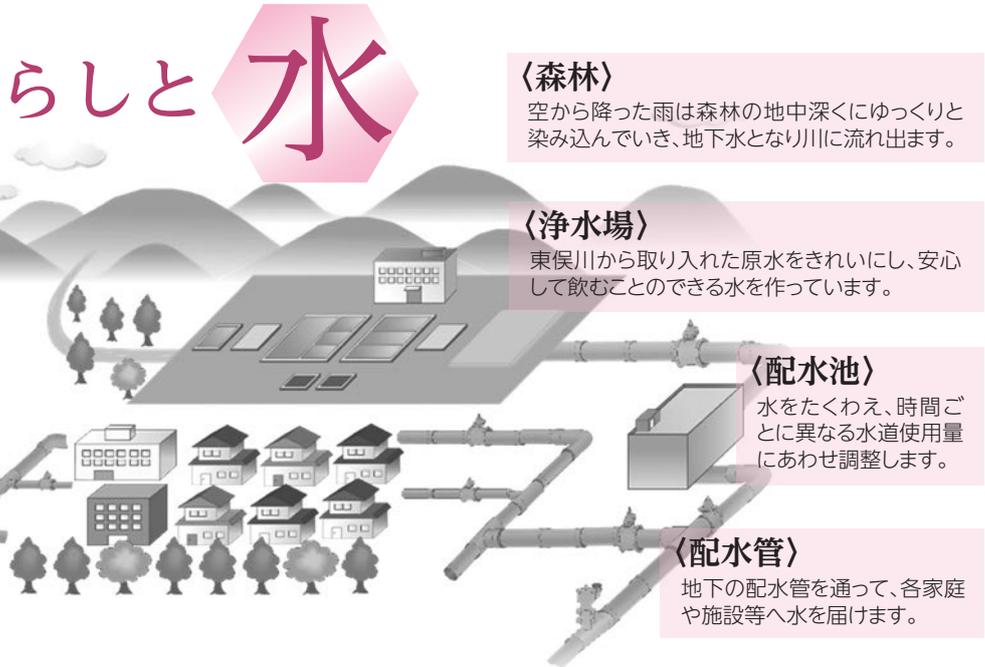


私たちの暮らしと水

私たちは日常生活の中で、飲み水や炊事、洗濯、風呂、トイレ等、多くの水を「生活用水」として使っています。

これらの水は、雨や雪をたくわえる上流の森林が水源となり、さまざまな場所で水質が厳しく管理され、家庭や施設等に供給されています。

そこで、川から取り入れた水がどのように家庭へと運ばれていくのか、東俣浄水場を例にとりご紹介します。



〈森林〉

空から降った雨は森林の地中深くにゆっくりと染み込んでいき、地下水となり川に流れ出ます。

〈浄水場〉

東俣川から取り入れた原水をきれいにし、安心して飲むことのできる水を作っています。

〈配水池〉

水をたくわえ、時間ごとに異なる水道使用量にあわせ調整します。

〈配水管〉

地下の配水管を通して、各家庭や施設等へ水を届けます。

町の浄水施設「東俣浄水場」

「東俣浄水場」は、霧ヶ峰八島高原に源を発し、東俣国有林内を流下する天竜川水系一級河川東俣川の表流水を取水したものを原水とし、急速ろ過方式にて安心して安全な飲料水となるよう浄水化しています。

さらに、町の他の水源として、大鹿、川路、源太などの全8水源から日量12,000m³の原水を取水し、第1～第5、高木、樋橋の7箇所の配水池で6,310m³の飲料水を貯水しています。

東俣浄水場のしくみ ～家庭に水が届くまで～



取水口

東俣川から必要な水を安定して取り入れるための施設で、1日に1万m³取水しています。



取水口沈砂池

沈砂池(ちんさち)と呼ばれる水槽で、川の水に混ざっている石や砂を沈めます。



除塵機

川の水に混ざっている落ち葉やゴミを取り除く機械を、24時間365日稼働しています。



導水管

導水管は浄水場まで水を運ぶ管です。



分水槽

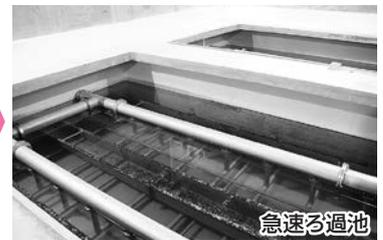
原水沈砂池

分水槽と呼ばれる水槽で、農業用水と水道用水に分けます。沈砂池で水に混ざっている土や砂を沈め、水量の調節も行います。



薬品混和池・フロック形成池・薬品沈殿池

小さなゴミを沈みやすくする薬を入れかき混ぜ、砂や土が沈みやすくなるようにフロックという濁りの固まりを作ります。その後、時間をかけて砂や土を池の底に沈め、取り除きます。



急速ろ過池

小さな濁りや砂が取り除かれた水を、さらにきれいにするため、特殊な砂を敷きつめた砂の層でこして、目に見えない濁りや細菌を取り除きます。



浄水池

急速ろ過池でろ過された水に塩素を入れて消毒し、きれいになった水を一旦この池にためておき、配水池へ送る水の量を調節します。



配水池

地下の送水管を通して浄水池から送られた水は、第1、第5配水池にためられます。昼と夜の水の使われる量に合わせて調節された水が各家庭へと届けられます。

私たちの生活に欠かすことのできない水資源を守るためにも、水を大切に使い、水循環を維持していきましょう！

